

世の中の変化と IIC の役割

代表取締役社長

柏崎 昭宏

Kashiwazaki Akihiro



毎度、当社の技術小誌「IIC REVIEW」をご高覧賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、IIC REVIEW で「防災・防疫・インフラストラクチャー・環境問題に対応する技術・サービス」と銘打って、特集号を企画しましたので、一言ご挨拶申し上げます。

2021 年は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から丸 10 年を迎えた節目の年です。その後も記憶の新しいものだけでも、2018 年北海道胆振東部地震^{いぶり}や、2019 年台風 15 号、19 号など、大規模な自然災害が頻繁に発生しています。2020 年 1 月頃から始まった新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、いまだに衰えることなく猛威を振るっています。また、菅政権の「脱炭素宣言」をきっかけに、脱炭素に向けての動きは急展開を見せています。

これらのできごとはわれわれの生活や社会のあり方に大きな変化をもたらしています。とりわけ新型コロナウイルスの感染拡大は技術のトレンドにも大きな影響を与え、従前から提唱されていた

デジタル化の進展をこれまでと違う次元のスピードに加速させるとともに、集中から遠隔・分散・多極化への転換を引き起こしています。

本号は、大きな変化の真ただ中にあるこの機に、社会で求められている「防災」、「防疫」、「インフラ保全」、「脱炭素」などの視点で当社の製品・サービスを整理し、その活用について社外から評価をいただくことを目的としています。

ご一読いただければおわかりのとおり、当社は、小規模でニッチではありますが、多種多様な製品・サービスを展開しています。これらを支えているのは、長い歴史の中で培ってきた検査、計測、制御、ものづくりなどの多彩な技術や現場での実績です。保有技術の多彩さや現場経験の積み上げは当社の強みです。引き続き、その継承、高度化を地道に進め、総合力を生かしてまいります。

しかし、それだけではこの激動の世の中を乗り越えることはできません。新しい技術の導入、とりわけ世の中の潮流となっている DX や保全事業に関わ

る技術にはもっともっとスピードをもって取組むことが重要です。そして、多彩な保有技術と融合させ、お客さまに事業に貢献する製品・サービスにつなげていくことが不可欠であると考えています。

当社は「技術をもって社会の安心・安全に貢献す

る」を理念としています。技術こそ当社の原点です。弛まぬ技術研鑽を継続し、時代が要請する製品・サービスを次々に打ち出せる事業体へ変革することに挑戦してまいります。皆さまの一層のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。